丸山湿原群保全の会会報

（第 166 号）

発行日：2021 年（R3）５月 19 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

http://www.hitosato.com/maruyama-shitsugen gun_hozennokai

変異種のコロナウイルスが次々とあらわれ、感染は一挙に広がりました。知り合いが感染したり、濃厚接触者になったり不安は募ります。田舎は関係ないと思っていたら大変なことに。緊急事態宣言も長引き、行事や活動が昨年同様厳しい状況です。

頼みの綱のワクチンは高齢者から始まりそうですが、予約で大揉め。ワクチン争奪戦でも始まりそうな勢いです。内緒で接種してる人もいるらしいし…。

とはいえ日常は日常。西谷では田植えシーズンが終わろうとしています。記録的（異常）に早い梅雨入りとか。でも記録的に早い梅雨明けはちょっと困りもの？梅雨であろうとなかろうと、適度に適当な間隔で降ってくれるのが一番です。水には毎年悩まされます。（農家の悩みか？）

早く進みすぎた季節ですが、今になって草花はほぼ例年の開花時期になってきたような気がします。自然は不思議。

（今住　５月 18 日作成）

定期活動★4 月 25 日（日）緊急事態宣言発出日！たくさんの車で駐車場満杯！

こんな時はお山へ、か？皆さん悪いことしてるような表情で？　いいのにね。10 名で活動

いよいよゴールデンウイーク。昨年は自粛。今年も、と誰が想像したでしょうか。「新しい日常はやはり「異常な日常」。よそのボランティア団体さんは、公共交通機関等を利用することが多く自粛。「丸山」は公共交通機関がほとんど使えずマイカー。で、基本心配はないということで活動しています。参加はいつも個人の自由。各自の判断で。

駐車場に入りきらない車

集合時間に集まると、すでに一般の方の車がずらり。多分、たくさんの人が訪れているのでしょう。しかし、出会うのはまれ。丸山エリアに数十人入ったところで密度は？？　道は狭いですが…。

今回の作業は、駐車場から入ってすぐのところの下草刈り。「しんどい」作業が嫌いなため、数年かけて「ちょっとずつ」整備しています。えらいもので、かなり明るい空間となってきました。ちなみにここは丸山湿原ではなく、バッファゾーンとなります。ヒメカンアオイやツチアケビなどが出るところです。ギフチョウも毎年…。今年は見ていない？でも、この後近くの田んぼで見かけました。よかった。

現状の報告を受ける監督

久しぶりに「監督」も参加。念入りに現場の状況を見極めていました。枯れ木処分も実施。刈り払い機、手刈り、手鋸作業でほんの少し明るい場所となりました。

木に張り付くムカシヤンマ

複眼と複眼が離れている

コバノガマズミ　赤いのは人

同日近くの田んぼにいたギフチョウ

ずいぶんすっきりしてきました

刈り取りを進めていると、**大きなトンボが…。ベタっと木に止まる。逃げるかと思えば頭の上に止まる。ムムム…。この人懐こさは。ムカシヤンマ？帽子を「そーっと」脱いで見てみると、オニヤンマのような柄。しかし目が離れている。間違いなくムカシヤンマ（昔蜻蜓）です。**ばっちり撮影。なんですが、この子はなかなか絵になるところに止まらない。止まってもベタッとへばりつくように。見つかれば簡単に写真に撮れますが、**これが相当の貴重種！兵庫 RDB B ランク。ほぼ A ランクともいわれています。**丸山でも観察されるのはこの場所だけのような気がします。**とにかく特殊な生態。ヤゴは水に入らず、苔が生えて水が滴るような場所の穴の中で過ごすそうな。（ヤゴは見たことがありません）ひたすら穴で３年ほど（多分）過ごしお空へ！**そんな環境がずいぶん減ってきているようです。作業している場所付近が適地ということなんでしょう。盛夏にはオニヤンマも産卵しています。ギフチョウ（岐阜蝶）も。「ひょっとして重要な場所かも」と最近思う私たちです。（気づくの遅くない？）よく考えて保全作業をしなければ…。だからゆっくりか？ちょっと言い訳。

花では木本類がたくさん咲いていました。コバノガマズミ（小葉莢蒾）やウグイスカグラ（鶯神楽）、ウワミズザクラ（上溝桜）などなど。

スクスク　ツチアケビ

林床を暗くするササ類や、ソヨゴ、イヌツゲ等の常緑樹はできるだけ刈り取っています。里山管理の基本やね。なんにも考えずに刈ってしまうこともしばしばですが。適当に頑張ろ！重機が入るわけでもないので。少々の「人力のしくじり」は自然がカバーしてくれます。多分…。知らんけど…。県に怒られるやろか？怒るんやったら自分でやってね！特に怒られてもいませんが…。

大きな杉の木も数本あります。植えたものでもないようなので、近くの植林からの実生か。推定樹齢５０年。またまた推定樹高２０m。残すべきか伐るべきか。と言っても下草刈りのかたがつくまでは触れません。気長に考えましょう。推定樹齢がどんどん進みそうですが…。私たちの技術では無理かもしれないし。

この日は湿原には行かずに作業を終えました。この間も歩道を多くの来訪者が…１０分に２人ぐらいというハイペース？で通って行かれました。丸山にしてはやはり凄い人出です。これを機会に「丸山湿原が日常」という方が増えてくれることを願っています。

定期活動★5月8日（土）　定期基礎調査　9名で活動

目的	市内	市外
丸山	45	79
ハイキング	26	53
散歩・登山	43	74

来場者数　計 320 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導（EC）	PH
入口	10：04	19.2℃		
第３湿原	10：35	【18.3℃】	29.9μS/cm	6.9
視点場	10：45	22.5℃	23.8μS/cm	7.0
第１湿原	10：58	【21.9℃】	28.6μS/cm	7.0
第２湿原	11：23	【18.5℃】	32.2μS/cm	7.0

ゴールデンウイーク終盤。普段はあまり見向きもされない竹筒ポストですが、320 人を記録。かなり多い。**期間中に訪れた会員によると、駐車場付近が車であふれかえっていたとのこと。「西谷の森公園」も建物内使用と園内飲食が禁止にもかかわらず、多くの車が来ていました。**

イノシシの狼藉

地域は田んぼ作業真っ只中。水の張られた田んぼの代掻き。田植えも始まっています。5 月中旬までには 8 割がた田植えが終わります。**コロナのコメ余りで価格が下がらないことを願います。**一般消費者は歓迎か。世の中難しい。適正価格での取引を！適正も難しい。

さて、会員が駐車場に車を停めて驚いたのが山際。「ナラ枯れ木」を積んであったのですが、それが崩れ、**駐車場側にはスコップで掘り取ったような形跡が。**タラノキがあったので掘り返し？いやいや芽を採るでしょ。**ということは「イノシシ」。間違いなし。凄いパワーです。猟期も終わり、餌となる食べ物も多く出てきて大ハッスルのようです。掘り返しは歩道に続いています。嫌な予感。歩道は獣にとっても「ハイウエー」。道の端に鼻での掘り返しが続きます。そしてツチアケビ付近にも。昨年と同じパターン。芽の２～３本は折れたでしょうか。**食べることはないようです。昨年も数本が折られ、その後他のも枯れてしまったと思います。折れた切り口から、雑菌？が入り枯れる？なんせ、光合成しない植物ですから。これは想像。今年はどうなるか？観察、観察。

イノシシの掘り起こしとツチアケビ

気まぐれなキンラン

イノシシの狼藉（ろうぜき）を目にしながら歩いていると、何やら黄色い輝きが！**刈り取ったササの下から？元気のよいキンラン（金蘭）です。これも花が咲くまでなかなか気づかない。しかも神出鬼没。数年同じ場所で見られるものがあると思えば消えてしまうものも。「日本ではありふれた和ランの一種」と言われていたようですが絶滅危惧種。**キンラン属の共生菌が樹木の外生菌根菌への依存度が高いらしく…難解だ！「やーめた」要するに、**日当たりとラン菌の条件が整わないと生えない、咲かないそうな。里山の放置が一番の減少原因。**ササを刈り、日当たりが良くなって出てきたのか？来年も見られることを祈ります。

ヤチカワズスゲ

湿原にはヤチカワズスゲ（谷地蛙菅）、ゴウソ（郷麻）などスゲの仲間が地味な花を咲かせていました。**地味だけどよく見ればかわいい！**

まもなく派手な連中が咲き出すでしょう！派手といっても野の花ですが…やっぱり地味か？マムシ（蝮）も元気に出てきました。どこかのブランドのような柄ですが決して手を出さないよう気をつけましょう。**何度も書いていますが温度（赤外線）センサー（ピット器官）で反応します。肌の露出は禁物です。やっぱり長靴やね。サンダル履きは命取り。**

バッグにしたいマムシ君

ゴウソ

さらに帰り道、第 3 湿原上手の木道へ向かう小道を上がっていると、何やら土の中からゴソゴソと。異様な雰囲気。ついに妖怪のお出ましか？と一瞬ひるんでしまいました。「ガマガエル」です。そう、昭和世代なら皆さん知っている「♬コンダクターはガマガエルー♪」「♬四六のガーマー♬」。「四六」は指の数。両生類セミナーでよくご存知の方は普通あり得ませんね。「四五のガーマー」です。

数はいるはずですがなかなか出会えないカエル。ニホンヒキガエル（日本蟇蛙）です。**日本種最大のカエル。出会う時は、湿った道の真ん中にじっと座っている。近づいても逃げない。こちらが「すいません、通らせていただきます」という感じです。**卵はアカガエル類と同じ 2～3 月にチューブ状のものを。その卵の数 3000～8000 個とも。だったらウジャウジャいてもおかしくないと思うのですが、やはり食べられる。かなり強い毒（ガマの油、後述）を持つまで試練の日々が続く。

いかにも省エネ　ニホンヒキガエル

油も出さず　それほど慌ててない？

ところが超省エネ設計の生活で、**あまり食べなくても動くことが少ないのでどんどん大きくなるとか。だから出会えない。出会ったときはたまたまのお食事の時間と考えたらいいようです。あとはただジッと。繁殖期のみハッスル。「カエル合戦」で有名なのはこのカエルだそうです。**私は見たことありません。卵もどこで産んでいるのか、丸山では見かけたことはないような…。「産んでるんだろな～」不思議。

このコは若い個体のよう。男のコ？指に「抱きだこ」があるような？オス・メスの判断はよくわかりませんが、大変美しいコでした。特に「ガマの油」を作るようにも見えませんが…。鏡で自分の姿を見て汗をかくやつね。「ガマの油売り口上」。これは筑波山のお話だからアズマヒキガエルかな？傷薬として売っているそうです。（化学合成）かなり古い時代に中国から入ってきたものは本物。（カエル由来）「蟾酥（センソ）」といい、正倉院にも納められていたようです。今では、心臓の薬「救心」の主成分というから驚きです。「毒薬変じて薬となる」ですね。身近な薬草もみんなそんな感じです。知らんけど。とっても楽しい出会いでした。感謝！（132 号にも同じ内容書いてました！幼体です。）トキソウ・ハッチョウトンボもそろそろ。山は安全ですよ！多分。

総会予告★6 月 27 日（日）　午前の定期活動後　開催予定は予定として…このままに。
まだ決めかねています。6 月に入ってからの判断となります。今年も書面議決か？

次回活動　5 月 23 日（日）6 月 12 日（土）27 日（日）午後総会　7 月 10 日（土）25 日（日）